

「とちぎ農業未来創生プラン」について

「とちぎ農業未来創生プラン」は、10年後(令和12(2030)年)を展望した本県農政の基本指針であり、農業・農村振興の基本的な方向性とその実現に向けた重点的な取組を明らかにしています。

この計画に基づき、農業者をはじめ、市町、農業団体等と連携・協力しながら、それぞれの役割分担のもと、本県農業・農村を振興していきます。

I とちぎ農業未来創生プランの概要

◆目指すべき将来像

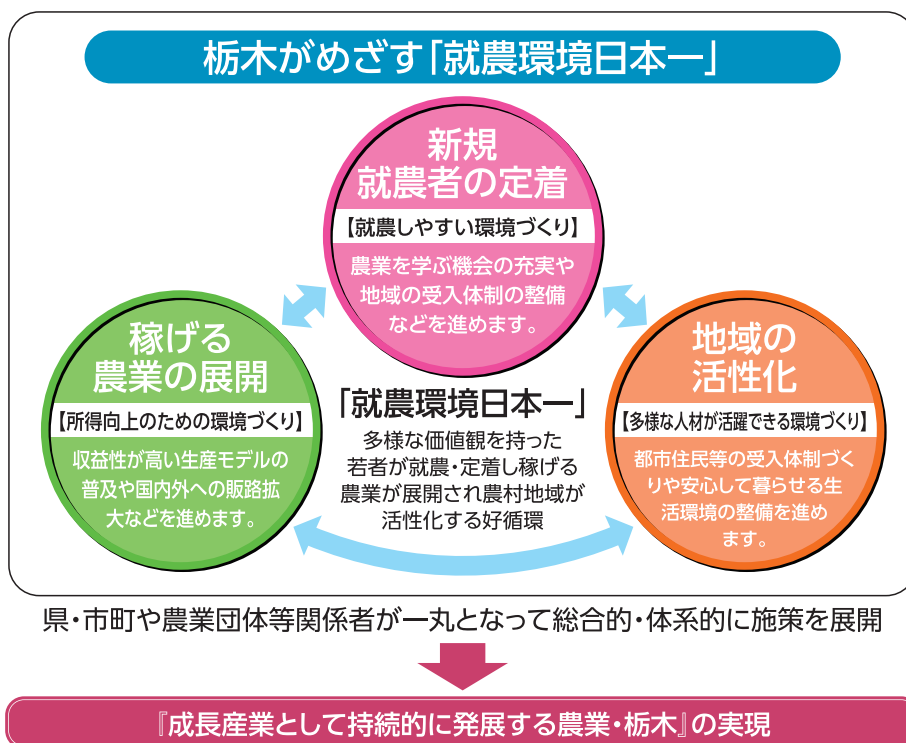
本県農業・農村の潜在力を最大限に生かした稼げる農業が展開され、子どもたちが夢を抱き、人々が集い、未来につながる農業・農村が実現

◆計画の基本目標 ～成長産業として持続的に発展する農業・栃木～

目標	項目	直近値	数値目標
農家の販売力	販売農家1戸当たりの農業産出額	793万円(2018年)	1,000万円(2024年)
地域農業を支える力	青年新規就農者数(5年間)	1,264人(2016-2020年)	1,600人(2021-2025年)
地域の持続力	担い手への農地集積率	52.7%(2019年)	80%(2025年)

◆施策の展開方向 ～栃木がめざす「就農環境日本一」～

「就農しやすい環境づくり」「所得向上のための環境づくり」「多様な人材が活躍できる環境づくり」を、県・市町や農業団体等関係者が一丸となって推進することで、本県に就農・定着する農業者が増加するとともに稼げる農業が展開され、農村地域が活性化する好循環を生み出す全国に誇れる就農環境を築いていきます。



◆重点戦略

新たな視点を加え、施策を横断的にパッケージし、今後5年間で戦略的に推進します。

戦略1 明日へつなぐ〈次代の農業を担う多様な人材の活躍促進〉

- ①地域農業を持続的に支える仕組みづくり(とちぎ広域営農システムの構築)
- ②意欲ある人材の参入促進(農業高校と農業大学の連携強化) など

戦略2 強みを伸ばす〈国内外の競争を勝ち抜く産地力・販売力の強化〉

- ①新たな施設園芸の展開
(AI等活用したいちご生産技術の開発、とちぎ型高収益生産モデルの確立)
- ②稼げる水田農業の実現(園芸メガ産地の育成、スマート農業技術の導入の加速化)
- ③栃木の畜産力強化に向けた展開(繁殖・肥育一貫経営の導入促進、家畜疾病対策の強化)
- ④“選ばれる栃木の農産物”の実現(ブランド価値の深化、米の輸出の本格化)
- ⑤次代を見据えた研究開発の推進(気候変動に対応した新品種・新技術の開発) など

戦略3 呼び込み・拓く〈安全・安心で活力のある農村の実現〉

- ①新しい人の流れの創出による農村地域の活性化(関係人口の創出・拡大)
- ②安全・安心な栃木の農村づくり(雨水の流出抑制対策の推進) など

◆地域計画

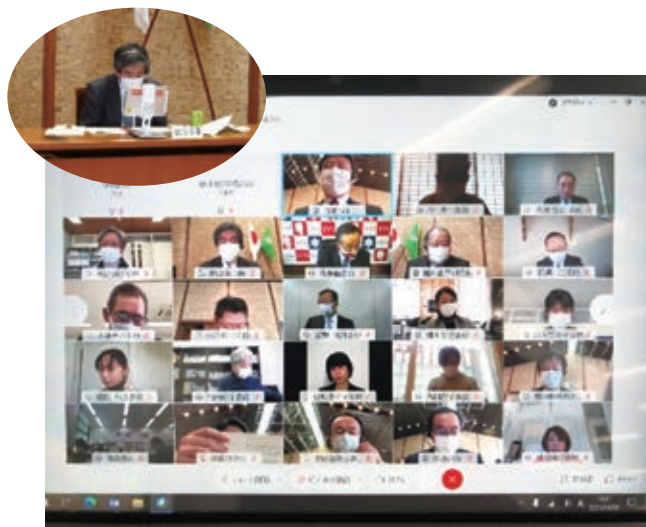
7つの農業振興事務所ごとに、地域独自の課題に対応する「地域戦略」を策定。

II 農政審議会の様子

「とちぎ農業未来創生プラン」の策定にあたっては、令和2年1月、栃木県農政審議会に対して計画の策定に係る意見について諮問し、以降3回にわたる審議及びパブリックコメントを経て、令和3年1月の第4回(通算44回)栃木県農政審議会において、秋山満会長(宇都宮大学農学部教授)から計画案については適当である旨の答申をいただきました。



計画の答申



コロナ禍における農政審議会のオンライン開催